



進路だより

揖斐特別支援学校

キャリア支援部 第3号



～ 未来へはばたくみなさんへ ～

令和6年度 7月発行

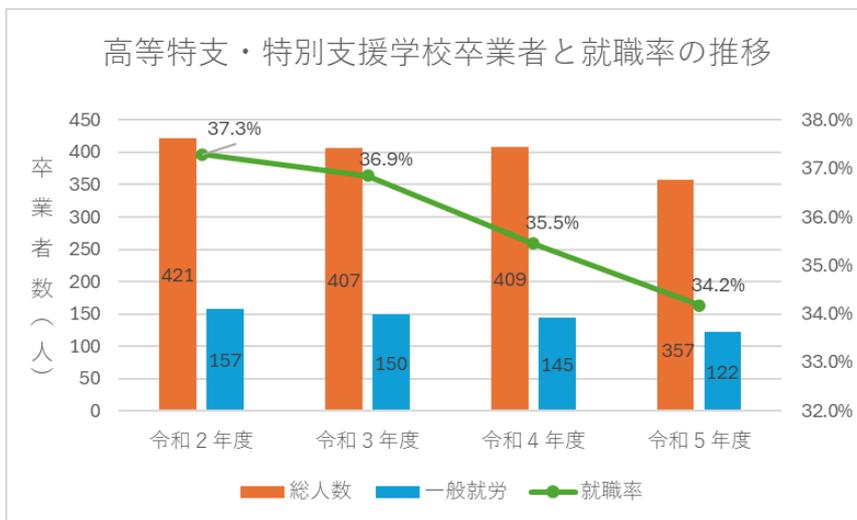
新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行し、1年以上が経過しました。世の中は、「ウイズコロナ」から「アフターコロナ」へ転換しつつありますが、今日本経済は、物価高による消費下押しや能登半島地震の影響、自動車認証不正問題等で景気回復が足踏みしている状況です。なかなか明るいニュースのない世の中ですが、6月5日（水）に高等部で現場実習激励会を行い、実習に向け生徒一人一人が決意を述べ、気持ちを高めて、6月10日（月）～6月21日（金）の2週間「現場実習と校内作業実習」に臨みました。1年生は、初めて2週間の校内作業実習に臨み、各自で決めた目標を達成できるように、長時間の作業に根気強く取り組みました。2年生は、初めて現場実習に臨み、学校とは異なった環境の中で、実際の職場や施設等で社会生活を体験しました。3年生は、卒業後の進路決定につなげるために、やりがいをもって力いっぱい実習に臨みました。今回の実習を通して、一人一人が新しい気付きと課題を見つけることができました。高等部の皆さんの今後の成長に期待しています。

★令和5年度の県内の高等特別支援学校・特別支援学校高等部卒業生の進路状況についてお知らせします。

・全卒業生 357人の進路内訳

大学等 進学	特別支援学校 専攻科進学	専修学校・職業 訓練校等進学	一般就労	福祉就労	在宅
7人	2人	2人	122人	212人	12人

※当校の高等部進路状況：卒業生11人のうち、一般就労2人、福祉就労9人です。



過去4年間の就職率の推移を見ると、35%程度であることが分かる。法定雇用率は上がってきているため、企業の方も雇用率を意識しながらも、現場実習を通し、実習生が企業の求める人材であることを、しっかり見極めていると思われる。

- ・福祉就労（通所・入所者）の割合は、令和2年度56.5%、令和3年度58.7%、令和4年度59.1%、令和5年度59.4%でした。

★令和5年度 県内の特別支援学校中学部の卒業生数と進路内訳

卒業生数	高等学校進学	特別支援学校 高等部進学	在宅者数
185人	5人	179人	1人

※当校の中学部進路状況：卒業生5人のうち、当校高等部へ進学5人です。

【現場実習の様子】

今回の現場実習には、17事業所に2・3年生19人が参加しました。実習後、事業所の方からいただいた「実習生の評価票」や生徒の実習日誌の内容や感想をもとに成果をまとめてみました。

- ①日々の作業学習等、学校で学んでいることが役に立ち、緊張しながらも実習に前向きに取り組む生徒が多かった。
- ②実習を通して、改めて働くことの厳しさを感じる生徒もいた。ただ、実習先の方から優しく丁寧に仕事を教えていただき、“勤労観”や“就労観”について考えるきっかけになった。
- ③実習で円滑な共同作業を行うためにも、基本的な挨拶やコミュニケーション能力、社会人として必要とされるマナーや礼儀などを身に付けることの重要性を学んだ。事業主の方の話で、挨拶や受け答えがハキハキしていると健康的で意欲を感じるとの評価をいただいた。
- ④3年生は、卒業後の進路を見据えた事業所で実習に臨み、改めて自分の進路についての気持ちを確かなものにできた。また、自分の住んでいる地域社会で活躍したい志を強くもつことができた。
- ⑤どの仕事も「安全・品質・効率」が基本だと理解できた。安全に作業を行い、品質が確保できて初めて効率的作業へとつながる。迷ったときには、決して、自己判断をせず確認し、慌てて作業をしない。
- ⑥メモ帳を活用する。現場で指導を受けたことや注意点等をメモ帳に書き留めることで、自分で確認しながら作業を進めることができた。
- ⑦一人で通勤（徒歩、自転車、電車・バス等の公共交通機関の利用）できる力を身に付ける。実習先が決定したら、事前にルートや時刻表を確認し、練習して実習に備えることが必要である。今回の実習では、事前に自転車で通勤ルートと通勤時間を確認する生徒が何人かいた。準備ができていたため、実習期間中慌てることなく頑張ることができた。